（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所YELL			
○保護者評価実施期間	令和8年　2月　4日	～	令和8年　2月　21日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	15
○従業者評価実施期間	令和8年　2月　4日	～	令和8年　2月　21日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　2月　26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアや重度の障がいを持った児が安全に安心して利用できるように丁寧で細やかな対応をおこなっている。	職員全員で児の特性や状態の理解に努め、支援がより安全に安心して行われるように１対１以上の職員配置で一人ひとりに丁寧に関われる時間を確保しています。医療的ケアが必要な児の状況に応じて看護師を複数名配置する体制づくりをしている。	医療的ケア児が増えてきているので、看護師の確保と職員のスキルアップのため、外部研修等に積極的に参加できる環境を整える。
2	経験豊富な専門職による手厚い支援体制をつくっている。	様々な職種の職員が在籍していることで、多様な専門的な視点による支援を実施することができます。経験年数の多い保育士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、介護福祉士等がそれぞれ意見を出し合いながら児の療育に努めている。	作業療法士等、在籍していない職種の職員の増員を図り、より多様な専門性のある支援が行えるようにしていく。
3	重度の障がいを持っていても、より多くの体験ができるように、外出活動やイベント事など普段あまりできないことに積極的に取り組むようにしている。	活動は固定化されず充実した内容になるよう定期的に会議で様々な案を出し合い、その準備にも力を入れている。活動の様子はSNS等で発信し、保護者の反応にも耳を傾けるようにしている。	新たな体験に児が安心、安全に取り組めるように事前の下見や活動計画書作成などを行っており、今後もその対応を継続できるように取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動支援やペアレント・トレーニングに取り組めていない。	家族からの求めがなかったので、ニーズがないと判断し取り組めていない。	父母の会の活動支援やペアレント・トレーニングにニーズがあるのかを確認し、必要に応じて取り組み内容を検討していく。各ご家庭の課題については、随時メールや電話、面談等で情報共有させていただき、課題にあわせた支援を行えるようにしていく。
2	地域住民との関わりが少ない。	テナントで運営を行っているので契約上、地域の自治会に所属ができず、地域住民との関りがほとんどない。	地域イベントへの参加が可能か検討する。